

人権・同和教育研究会（社会教育部）

パネルディスカッション

| | |
|---------------|---------|
| パネラー | |
| シトラスみんなの応援隊 | 坂下 陽子さん |
| シトラスみんなの応援隊 | 石村 菜美さん |
| 四国中央市立金生第二小学校 | 石橋 範子さん |
| 四国中央市人権対策協議会長 | 山田 政春さん |
| 四国中央市人権教育協議会長 | 橋本 裕式さん |



この研究大会は、『誰もが自分らしく幸せに暮らしていけるまちづくり』をめざして開催しています。今年には水平社創立から百年、今なお「安心して自分の出自を言える」状況にないのはなぜなのか、差別を残しているのは誰なのかについてパネルディスカッションを行いました。

最初に、「差別されたくない」ではなく、「差別をなくしたい」という強い思いで水平社運動に立ち上がり、水平社宣言に至るまでの歴史について石橋さんからの説明があり、その後話し合い、会場からの意見感想をいただきました。

参加された方の感想

石橋さんの話の中で「自分のしんどいことを抜きにして人権・同和教育を考えるのではない」という内容が印象に残りました。誰か

のための人権・同和教育ではありません。やはり、自分のため、家族のため、そこから始まって良いと思います。ただ、大切な人のために差別をなくしたい、自分がなくしたいとも強く思います。自分自身を見つめながら、自分の心の中の差別心をなくせるよう向き合っていきたいです。

パネラーの皆さんが疑問を投げかけてくださった度に必死で考えました。同和教育、差別は無くしたい。でも、私に何ができるか悩んでいました。今回参加して、自分のために、自分の差別心に気付くこと。そして、周りにしんどい人がいなか気にかけること。今日会う人の笑顔を願うこと。できることは沢山あると気付いて、やってみよう！と思うことができました。

自分が最近コロナに感染し、以前ほどの差別がないと分かってもやはり肩身の狭い思いや不安な気持ちを経験しました。私は10日間程度の思いでしたが、部落差

別にあっている方はこれ以上の不安な思いを生まれてからずっとさられているということに思い至り、改めて部落差別をなくしていくことは1日でも早く実現しなくてはいけないと思いました。自分の中の甘え（放っておけばそのうち風化してなくなっていくのではという考え）に気付くことのできたディスカッションでした。



ディスカッション形式の大会を見るのが初めてだったので、一人一人のパネラーの方が自分の意見を言い合っているのは新鮮でした。差別を自分の事のように捉えるのは、コロナ差別のように自分

が当事者になる可能性があるものは簡単だけど、部落差別を自分の事のように捉えるのは難しい。だから、部落差別はなくならないのかなと思います。心のどこかに自分達とは違う、自分の方が優れているという「自分の中にある差別心に気付く」ことが大切であるなど感じました。自分自身が差別をしない、差別はおかしいという気持ちや思いを広げていくこと、差別に関して自ら学ぼう、知ろうとする場を求めることが、まず、自分が差別をなくすためにできることだと知ることができました。

(20代 市職員)

差別のおこりから丁寧にお話いただき、パネリストの方々がご自身の思いを体験から語られていたことがとても説得力があつて学びにつながりました。当事者の思いに寄り添うだけでなく、自分の内側を見つめながら生きていくことが大事であるとうよく分かりました。

「ちょっと立ち止まって自分の心の中を点検することが人権・同和教育だ」ということは、とても

分かりやすい言葉なので、これらの保護者啓発に活用していきたいと思えました。差別を無くすためには自分の思いを発信していくことが要であることも改めて感じました。会場の声もよかったです。

(50代 学校教職員)

私には難しすぎて理解するのに苦しみました。「差別はダメ」を教えるだけではだめなんではなか。普段から部落差別について考えて生活——みんななしていますか。

コロナ差別や学校のテストの平均点、全てのことを部落差別に結び付けて考えているのは少し違うのでは・・・根本はそこかもしれませんが、課題は別にもあると思います。テストの平均点は、自分の子どもの学力がどの位か知るために聞きますし、他の人より上だから下だからというつもりでは聞かないです。未熟ですみません。もっと勉強したいと思います。

「差別をなくす」ことは大切ですが、「優しい気持ちを持つ」がすごくいいなと思えました。今の時代、その方が、みんなの心に届

くような気がします。

(40代 保護者会・PTA)

アンケートで「そつとしておけば自然になくなる、自分に直接関係がない」と回答している方は、同和教育に関心がない方であり、この問題が薄らいできていくと理解しても良いのではないかと思います。

ただ、今日のお話を聞いて、差別（部落差別に限らず）はなくなることはないからこそ、問題を意識し続けなければならないというのが本質ではないでしょうか。

(40代 企業関係者)

水平社の話など、分かりやすく振り返ることができてよかったです。

就学前教員ですが、子ども達も分かっているなくても、大人になってから分かって差別を許さない、なくす気持ちにつながっていったら嬉しいと思いました。子どもと共に自分を振り返る機会がありたいことだと思います。まずは感性の土台をしっかり作れるようにしたいです。

誰でも人に言いたくない悩みが一人一人の人権課題であり、部落差別もその一つという発想にすんと納得できました。

(20代 就学前教職員)

研究大会参加者のみなさんが、パネラーの発言を真剣に聴き、受け止めて考えていることが感想から伝わってきます。一人一人が自分の心と向き合い、周りの人や社会に目を向けて、それぞれの立場で、自分ができることから取り組んでいく。そのことが、「誰もが幸せに暮らしていけるまちづくり」に繋がっていくのではないのでしょうか。

